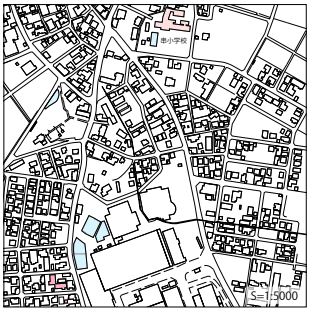
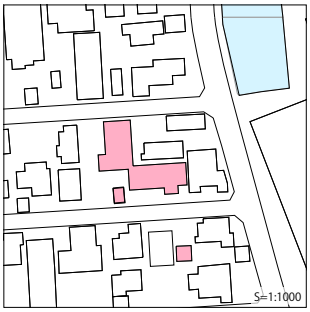
シェアハウスを中心とした
高齢者とこどもの生活・交流拠点

81560051　4年　元田 彩音

周辺敷地





研究背景

私は、母が定年を迎えた頃に住む「高齢者だけで暮らすシェアハウス」と地域のこども達が通う学童を併設し、シェアハウスを中心とした高齢者とこどもの生活・交流拠点を提案する。

敷地は、今は母の実家の家には祖父母が住んでいるが、祖父母が亡くなってしまった後空き家となってしまうことを想定し、その空き家と工場をリノベーションして生活・交流拠点を作ることを設定している。空き家を活用することで、空き家問題に対する解決法の一つとしての提案をする。

コンセプト

最終目的

近年、二世帯や三世帯で暮らす人口が減少し、高齢者だけで暮らす人口が増加している。そのため、高齢者が一人で過ごす時間も増加している。高齢者が一人で過ごすにあたり、ケガや認知症の悪化、孤独死など様々なリスクがある。そんな高齢者が、集団で楽しく過ごし、デイサービスなどのサービスを受けられるシェアハウスや地域の高齢者が日中、遊びに来てシェアハウスの住人と過ごせる居場所、宿泊できる部屋を家の場所に設ける。

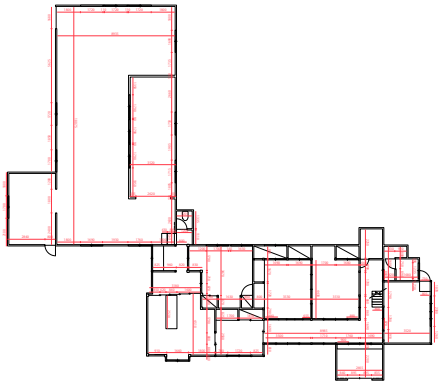
2025 年には、地域包括支援システムが確立される予定である。地域包括支援システムの最大のポイントとしては、高齢者が住み慣れた地域で介護や医療、生活支援サポート及びサービスを受けられるよう市区町村が中心となり「住まい」「医療」「生活支援・介護予防」を包括的に体制を整備していくという点だ。そのシステムをうまく利用し、サービスをシェアハウスで受けられるようにしたい。

工場の場所には、歩いて15分の場所に小学校があるので学童を設け、こども達放課後を一人で過ごすのではなく、高齢者との関わりを通してたくさんの体験ができる場所にしたい。そして、高齢者とこども達が習い事ができる場所やイベントを行える場所をつくり、高齢者とこども達が交流できる場所を設ける。
また高齢者とこども達が関わることで、こども達の親と高齢者とも自然に交流が生まれ、地域としての連携も強くなると考えている。

ダイヤグラム

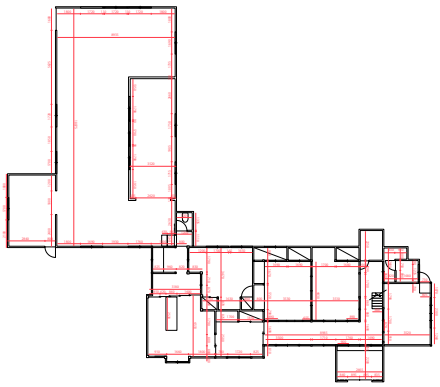
平図面　（住居スペース、工場）

現在 1 年目



S=1:200

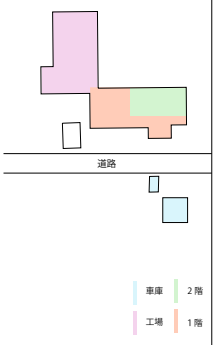
15 年目

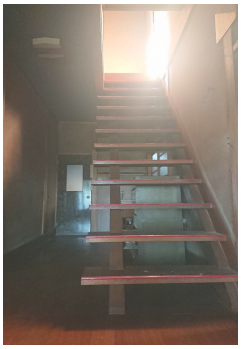


S=1:200

1 年目～15 年目（完成）までの計画

1	2018	車庫の制作
2	2019	工場の掃除、整理
3	2020	
4	2021	習い事の部屋
5	2022	学童
6	2023	畑、花壇
7	2024	2 階を減築
8	2025	浴室、トイレ、洗面所
9	2026	リビング
10	2027	個室
11	2028	
12	2029	庭
13	2030	キッチン、ダイニング
14	2031	
15	2032	完成





車庫の図面

スケジュール

4 月	・テーマ決め
5 月	・老人ホーム、学童、空き家についての現状の把握
6 月	・実測、図面化
7 月	・15 年目（完成）の図面 ・車庫の図面
8 月	中間発表 ・車庫の制作
9 月	・模型制作
10 月	・模型制作 ・パース
11 月	・パネル、概要
12 月	発表
2 月	卒業制作展